

2 伝統野菜の食育研究の取組

ねらいと成果

「食育基本法」制定を受け、農業や食文化に対する子ども達や保護者の理解を深めるため、地域の食材として伝統野菜に着目し、学校現場での栽培学習用に、身近な資材を用いた栽培マニュアルを作成した。

内容

1 岩津ネギの袋栽培

6月中旬に牛乳パックには種して、育苗する。夏休み中は児童が自宅へ持ち帰って観察する。休み明けの9月に肥料袋に穴を開け、3回折り込んで土を入れて定植する。1か月に1回、土を10cmほど入れ、袋の口を巻きもどし、軟白して白根を作る。12月下旬に収穫することができ、一部は翌年6月中旬まで管理し、種採りしていのちの循環を学ぶ。

2 武庫一寸ソラマメの段ボール箱栽培

厚手の段ボール箱（縦29cm、横36cm、深さ20cm）の蓋を内側に折り込み、補強する。段ボール箱が変

形しないよう麻ひもで周囲を縛る。土を入れて、10月中旬には種をする。冬季は、寒害を受けないよう寒冷紗等で防寒する。4月頃に支柱を立て、倒伏を防ぐ。5月中旬頃から収穫することができる。6月に翌年の種を採ってから、使用後の段ボール箱や植物残さは土に埋め、資源の循環を学ぶ。

普及上の注意事項

使用後の資材がゴミにならないよう、リサイクル可能な資材を活用する。



図1 岩津ネギの袋栽培



図2 一寸ソラマメの箱栽培

小林 保（農業技セ・園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2423）

3 岩津ネギの新作型開発によるさび病軽減

ねらいと成果

岩津ネギのさび病は、5月～6月の育苗期と収穫期に発病のピークがある。育苗期に罹病した株が伝染源となること、夏の高温時に発病が抑制されることから、慣行より2か月遅い6月は種と平床植えの組合せでさび病を回避できる。

内容

200穴セルトレイに6月中旬は種し、8月中旬が

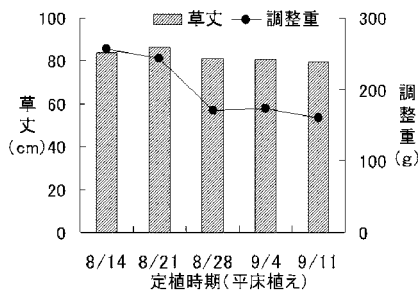


図 定植時期が草丈と調整重に及ぼす影響
（播種：6月中旬）

ら9月中旬に定植を行った。また、植栽方法を慣行の溝底植えと平床植えとし、さらに慣行地床苗を平床に機械定植した。8月21日までの定植で収穫時には、慣行と同程度の草丈80cm以上、調整重250gが得られるが、9月以降の定植では、調整重がやや軽くなる（図）。慣行の溝底植えより、平床植えの生育が優った。また、慣行地床苗を平床に機械定植しても、ネギの生育は旺盛でさび病の発生もなかった。

このことから、200穴セル成型苗を、6月中旬には種し8月中下旬に定植すれば、育苗期のさび病を回避できるとともに、平床植えにより生育が旺盛となり、慣行と同等の収量を得ることができる。

普及上の注意事項

平床植えは、軟白部形成のための培土量を考慮し、畝幅を慣行の溝底植えより広くする必要がある。

福嶋 昭（北部農技セ・農業部）

（問い合わせ先 電話：079-674-1230）